

『マナス』に見るキルギス語のヴォイス接辞と複雑動詞述語

大崎紀子 (京都大学文学研究科附属ユーラシア文化研究センター)

1. はじめに

キルギス語の動詞語幹に直接接続する派生接尾辞には次の 5 種類のものがある:

使役接尾辞 (e.g. *bil-dir*-「知らせる」<*bil*-「知る」)、受動接尾辞 (e.g. *jaz-il*-「書かれる」<*jaz*-「書く」)、再帰接尾辞 (e.g. *juu-n*-「自分を洗う」<*juu*-「洗う」)、相互・共同接尾辞 (e.g. *kör-üš*-「会う」<*kör*-「見る」)、多回相接尾辞 (e.g. *ur-gula*-「何度も叩く」<*ur*-「打つ」)。

このうち、多回相接尾辞を除く、使役、受動、再帰、相互・共同の接尾辞は、その付加によって動詞がとる補語名詞句の格表示に変化をもたらす、ヴォイスに関わる接尾辞である。キルギス語では、他のチュルク語同様、連続した複数の動詞の組み合わせによってアスペクトや動作様態などを表す複雑動詞述語が発達しているが (e.g. *ayt-ip jiber-* (tell-SEQ send-)「突然／素早く言う」、*oku-p čik-* (read-SEQ go.out-)「読み終える」)、このような複数の動詞で構成される述部が受動化された場合にどのような受動文を構成するかについては、大崎 (2015) において形態論的な観点から以下の 3 つの方法があることを指摘した:

[方法 1] 先行動詞 (V1) と後続動詞 (V2) 両方に受動接尾辞をつける方法

[方法 2] V2 のみに受動接尾辞をつける方法

[方法 3] V1 のみに受動接尾辞をつける方法。

本発表では、大崎 (2015) で扱った受動接尾辞だけでなく、使役や相互・共同など他のヴォイス接尾辞が複雑動詞述語にどのように接続するのかについて、キルギス英雄叙事詩『マナス』に見られるキルギス語を題材にして考察を行う。

2. なぜ『マナス』なのか

2.1 英雄叙事詩『マナス』とは

キルギス族に語り継がれてきた口承文学で、発生年次については 7-10 世紀頃とするものから 15-18 世紀発生説まで諸説がある。文字化テキストとしては、キルギス共和国の大マナスチ (吟唱芸人)、サグィムバイ・オロズバコフ (1867-1930) が 1920 年代に吟唱した 18 万行を超える『マナス』のテキストが最も有名である。『マナス』テキストは、一行 2~4 語、各行 7~8 音節で構成され、主に頭韻と脚韻と文法韻を用いた韻文形式で書かれているが、その言語は、発生当初の時代の言語を反映したものではなく、吟唱された時代の口語に基づくものである。

2.2 「例外」? 一少数データの扱い

大崎 (2015): 「持続状態」を表す V2 補助動詞 *jat*-「寝る」、*tur*-「立つ」、*otur*-「座る」、*jür*-「歩く、行く」を含む複雑述語は、主に [方法 3] によって受動化される。[方法 1][方法 2] でも受動化は可能だが用例は少ない。

2.2.1 補助動詞 *jat*-「寝る」を含む複雑述語の[方法 1]による受動化 (Google 検索 03/07/2016) :

3 例のみ: *atkar-il-ip jat-il-a-t* (carry.out-PASS-SEQ lie-PASS-PRES-3)「実施されている」;
kezik-tir-il-ip jat-il-a-t (meet-CAUS-PASS-SEQ lie-PASS-PRES-3)「会わされている」;
al-in-ip jat-il-gan (take-PASS-SEQ lie-PASS-VN)「取られている」.

これに対して[方法 3]は:

“*atkar-il-ip jat-a-t*” (carry.out-PASS-SEQ lie-PRES-3)「実施されている」 31,100 hits;
 “*al-in-ip jat-kan*” (take-PASS-SEQ lie-VN)「取られている」 50,400 hits.

表 1 持続状態を表す補助動詞を含む複雑動詞述語の受動化の成立状況

	[方法 1]	[方法 2]	[方法 3]
<i>jat</i> -「寝る」	? (3 例)	? (1 例)	OK
<i>tur</i> -「立つ」	OK	?	OK
<i>otur</i> -「座る」	?	?	OK
<i>jür</i> -「歩く、行く」	?	?	OK

2.2.2 V2 補助動詞 *tur*-「立つ」を含む複雑述語の[方法 1]による受動化

V1 には今のところ 32 個の動詞が確認されている (括弧内の数字は 01/20/2016 時点の確認用例数) :
al-in-「取られる」(3)、*atkar-il*-「実施される」(3)、*aşir-il*-「越えられる」(1)、*ayla-n*-「回される、変えられる」(3)、*belgile-n*-「言及される」(6)、*ber-il*-「与えられる」(47)、*bildir-il*-「知らされる」(2)、*böl-ün*-「分けられる」(1)、*bur-ul*-「向きを変えられる」(1)、*çakir-il*-「招かれる」(2)、*çekte-l*-「制限される」(1)、*çigar-il*-「出される」(2)、*jaz-il*-「書かれる」(1)、*jarıyala-n*-「公表される」(1)、*jetkiz-il*-「届けられる」(1)、*jiber-il*-「送られる」(2)、*jürgüz-ül*-「行われる」(1)、*kaytar-il*-「返される」(2)、*kol koy-ul*-「署名される」(1)、*kotor-ul*-「翻訳される」(3)、*körsöt-ül*-「見せられる」(1)、*köz sal-in*-「見られる」(1)、*maaliında-l*-「公表される」(1)、*oturguz-ul*-「座らされる」(2)、*ötkör-ül*-「行われる」(8)、*sakta-l*-「守られる」(1)、*seb-il*-「撒かれる」(2)、*tartuula-n*-「捧げられる」(1)、*tazala-n*-「きれいにされる」(2)、*tile-n*-「望まれる」(4)、*toktot-ul*-「止めさせられる」(1)、*ıygar-il*-「賞を与えられる」(4)。

補助動詞 *tur*-を含む複雑述語の[方法 1]と[方法 3]による受動化には、大まかな意味の違いがあるようである:

- (1) a. Ar bir *çırma-l-gan* tal *çiy* *belgile-n-ip* *tur-ul-a-t*. [方法 1]
 every interconnect-PASS-VN willow reed specify-PASS-SEQ stand-PASS-PRES-3
 「それぞれ結ばれた柳葦が指定されている」(Wikipedia)
- b. *Kızıl* *tüs* *menen* *on eki eli içegi* *belgile-n-ip* *tur-a-t*. [方法 3]
 red color with duodenum specify-PASS-SEQ stand-PRES-3
 「赤色で十二指腸が示されている」(Wikipedia)

[方法 1]による受動化は、ユルトを作る材料の一つを説明する文脈の中で用いられた(1a)に見るように、「恒常的な状態」を表す傾向があるのに対して、[方法 3]は、当該ページに限定した状態を表す(1b)のように、「一時的な状態」を表すことができる、という違いが指摘できる。

しかし、[方法 1]と[方法 3]による受動化には、使用頻度において大きな違いがある：

(2)	<i>tur-ul-a-t</i> [方法 1]	<i>tur-a-t</i> [方法 3]	(数字は 01/20/2016 Google ヒット数)
<i>belgile-n-p</i>	6	743	「言及／指定されている」
<i>ber-il-ip</i>	45	25,900	「与えられている」
<i>ötkör-ül-</i>	8	25,800	「行われている」
<i>jaz-il-ip</i>	1	51,900	「書かれている」

このように、補助動詞 *tur-*を含む複雑述語は、[方法 1]によっても受動化は可能だが、[方法 3]による受動化の方がはるかに数が多く、一般的である。そこで、持続状態を表す補助動詞を含む複雑述語の受動化において少数ではあるが現れる[方法 1][方法 2]の用例をどのように扱うかを考えるうえで参考にするため、約 100 年前の口語に基づく「閉じた」テキストである『マナス』を調査することにした。

3. 調査対象

- ① Musaev (2005) による『マナス』第 1 部の一部電子化テキスト(57,069 行、191,867 単語)。
- ② モスクワから出版された『マナス』第 1 部第 4 冊のテキスト(14,573 行、49,124 単語)。

4. 『マナス』に見られるヴォイス接辞と複雑動詞

4.1 受動／再帰接尾辞

「持続状態」を表す補助動詞だけでなく、すべての複雑動詞で確認されたのは[方法 3]のみ：

(3) a.	<i>Ayt-il-ip</i> say-PASS-SEQ	<i>tur-gan</i> stand-VN	<i>bu</i> this	<i>söz</i> word	[方法 3]	
						「言われているこの言葉」(IV: 4343) ¹
b.	<i>Kir-il-ip</i> slaughter-PASS-SEQ	<i>kal²-sa-k</i> remain-COND-1PL		<i>kıtay-dan</i> PN-ABL	[方法 3]	
						「クタイによって殺されてしまったら」(IV: 2932)
c.	<i>Örttö-n-üp</i> put.fire-REFL-SEQ	<i>ket-ken</i> leave-VN		<i>kıtay-din</i> PN-GEN	[方法 3]	
						「頭がかっかしているクタイ人の」(IV: 8635)

4.2 使役接尾辞

「V1-CAUS V2」の形式しか見られない：

(4) a.	<i>Naalı-t-ıp</i> complain-CAUS-SEQ	<i>jür-üp</i> walk-SEQ	<i>soy-bo-ıuz</i> slaughter-NEG-IMP:2SG		
					「不平を言わせて殺さないでください」(IV: 4240)
b.	<i>Kayra</i> again	<i>baş-ı-n</i> head-POSS:3-ACC	<i>kötör-t-üp,</i> raise-CAUS-SEQ	<i>ayla-n-dır-ıp</i> turn-REFL-CAUS-SEQ	<i>al-ıptır</i> take-EVID
					「もう一度頭を持ち上げさせてうしろを振り向かせた」(IV: 857-858)

¹ 『マナス』第 4 冊 4343 行目を表す。

² 補助動詞 *kal-*は「完了した動作、偶然／突然の動作」を表す。

4.3 相互・共同接尾辞

一見、V1・V2 両方にも、またはいずれか一方だけでも付くよう見える³：

- (5) a. Kübürölö-š-üp kal-iš-ti
whisper-*sh*-SEQ remain-*sh*-PAST:3
「互いにささやき合っていた」(IV: 3197)
- b. Adam-din baari čurkura-p, koy-doy čuula-p kal-iš-ti
person-GEN all squeal-SEQ sheep-like talk.noisily-SEQ remain-*sh*-PAST:3
「人々すべてが悲鳴を上げ、羊の鳴くような声を上げた」(IV: 3928-3929)
- c. Döbö-dögü tört baatir jergele-š-ip tur-gani
hill-be.located 4 hero sit.in.a.row-*sh*-SEQ stand-CV
「丘の上にいる4人のバートルは並んで座ったままだ」(IV: 8387-8388)

しかし、キルギス語の相互・共同接尾辞は主体の複数性を表すためにも用いられる(Johanson1998: 43)。『マナス』においてV2に接続するのは複数を表す-(I)šに限られ、ヴォイス接辞としての-(I)šがV2に付くことはないと言ってよいかもしれない。しかし(5a)のようにV1・V2両方に付いている場合、V2に付く-(I)šが単に複数を表すものか、それとも受動接尾辞の場合のように相互・共同接尾辞が二重に付いているものかは判定が難しい。ただ、-(I)šが両方に付く用例の多くは相互・共同というより主体の複数性を表すものであり(6a)、相互・共同ではV1のみに付く例しか見当たらない(6b)：

- (6) a. Asker-i-nin baari-si ašig-iš-ip kal-iš-ti.
army-POSS:3-GEN all-POSS:3 hurry-*sh*-SEQ remain-*sh*-PAST:3
「軍隊の誰もが慌ててしまった」(IV: 7683-7684)
- b. Ur-uš-up jür-üp kokus-tan, jul-uš-up jür-üp okus-tan
bear-*sh*-SEQ walk-SEQ sudden-ABL pluck-*sh*-SEQ walk-SEQ chance-ABL
「不意に戦いになって、たまたま引っぱり合いをしているうち」(IV: 3513-3514)

5. おわりに

キルギス語の複雑動詞述語がどのような形式で受動化されるかは、Bybee(1985: 4)が指摘した関連性階層(V-Valence-Voice-Aspect-Tense-Mood-Agreement)におおよそ合致する。すなわち、もっぱらアスペクトに関わるV2(持続を表す4動詞、完了を表すkoy-「置く」など)やモダリティに関わるV2(偶然さを表すkal-「残る」、試行を表すkör-など)に受動接尾辞が付くことは少ない一方、動作様態に関わるV2(突然さ・迅速さを表すjiber-「送る」、iy-「曲げる」、tašta-「投げる」など)には受動接尾辞が接続することが多い。これはヴォイス接辞全般に当てはまると考えている。更にこの階層は、3個の動詞が連続する場合のV3に現れうる動詞の選択にも関わっているようである。しかし、『マナス』には確認されなかったものの、現実には数多く出現する「例外？」をどう扱うかが難しい。

References

- Bybee, Joan L. 1985. Morphology: A study of the relation between meaning and form. Amsterdam: Benjamins.
 Johanson, Lars 1998. 'The structure of Turkic', in Lars Johanson and Éva A. Csató (eds), *The Turkic Languages*. London, New York: Routledge, 30-66.
 Musaev, Talaibek 2005. *The Epos Manas Concordance*, Graduate School of International Development, Nagoya University.
Manas. Kirgizskiy geroičeskij epos. Kniga 4. 1995. Moscow: Izdatel'stvo "Hacledie".
 大崎紀子(2015)「キルギス語の複雑動詞述語を受動化する三つの方法」日本言語学会第151回大会予稿集, 276-281.

³ -(I)šの出現に押韻が関わっていない用例を選んでいる。